

*全体をとおして

計画策定に必要と思われる必要十分な組織がつくられ、計画策定終了まで順調に機能した。特に外部機関からの専門職の参加や公募による市民の参加など、計画策定に幅広い人材が関わり型にはまらない西予市の独創的な計画が誕生した。また、市民の声を積極的に取り込む工夫として分野ごとのグループワークを継続して行い、市民の方々の積極的な発言に結びついた。

2) 現状及びニーズの把握

健康課題の抽出や市民ニーズの把握のため、策定準備期間（1年4ヶ月）には各種情報収集分析を行うとともに市民ニーズ把握のための手段の検討を行っている。健康に関する情報の収集分析では管轄の保健所である八幡浜中央保健所が全面的なバックアップを行い、基礎的な指標の整理が行われた。市民ニーズ把握の手段としては、無作為抽出市民アンケートと公募による市民代表や各地区組織代表者との懇談会の二本立てとし、これらにあわせ保健師・栄養士などの市職員が日常業務のなかで感じ取った市民の思いを加味して市民ニーズの把握に努めた。

3) 市民や関係者との目的・目標の共有

策定準備期間（1年4ヶ月）を十分に取り、情報収集分析とともに計画策定の意義についてスタッフ間で話し合いを行った。また実質の計画策定に入る前に策定に関わる全スタッフ（市民代表者を含む）参加で健康増進計画について研修会を行った。

4) 計画の目標設定と事業（手段）の関連

西予市の計画では健康課題や市民ニーズに重点を置き、10年後の西予市で達成可能と思われる独自の数値目標設定を行った。また、健康課題の抽出作業では県国保連合会の協力を得て医療費の分析を併せて行い、医療費をとおしてみる西予市の健康課題の改善についても目標としている（医療費はあくまで健康課題改善の物差し）。また、西予市の健康増進計画では計画の基本的方向を「市民の生活の質の向上（QOLの向上）」とし、これらの実現手段として計画期間における各種事業のレイアウトを考えている。

5) 具体的な取り組みの提示

西予市の健康増進計画では6つの分野ごとに今後の対策を、

*実践目標

- *一人ひとりができること
- *地域ぐるみでできること
- *行政や専門家が取り組むこと

に分けて示し、これらに対応した具体的な事業の長期計画（10年間）も併せて掲載している。（資料2）

3 計画策定後の推進（予定）

1) 取り組みのための基盤整備

西予市の健康増進計画では、計画に基づいたヘルスプロモーションの展開のため計画のなかで特に章立てを行い、計画の推進体制について述べている（資料3）。この計画は平成17年3月末に正式に決定されるもので、現時点では実績として示すべきものはないが今後の計画に基づいた実際の推進状況についてはしっかりとモニターされる必要がある。

2) 環境整備

環境の整備については6つに分けた各分野の「地域ぐるみで取り組むこと」及び「行政や専門家が取り組むこと」の二つの項目に具体的目標として記述しているが（計画詳細版参照）、特に市民への情報提供や受け皿のネットワーク化については今後、具体的な対策について詰めていく必要がある。

3) 計画の周知

西予市の健康増進計画には詳細版と概略版の二つがあり、このうちの概略版はその内容を一般市民向けにわかりやすく記述したパンフレット形式（A4で8ページ）のもので策定後には市民への周知目的で全世帯配布が予定されている。また、計画の内容がおおむね決定される平成17年3月には健康づくりセミナーが開催され、一般市民参加によるシンポジウムが行われる予定である。また、計画開始年度にあたる平成17年度からは計画の認知度等についてもモニターしていく予定である。

4) 計画の活用状況

西予市の健康増進計画は平成17年度からの10年間計画として策定されるが、計画開始年度にあたる次年度については、計画の中間案等を基にして事業の予算要求を行い計画各分野ごとの内容を集約したパンフレットの作成や、自殺が多い健康課題から特にこころの健康対策に力を入れることとし、こころの健康相談などの窓口を設置する予定である。また、運動普及や栄養改善を取り組みの主体としての地域自主組織が数多く存在することから、これらの活動を側面から支援する具体的な対策についても検討中である。

4 進行管理・評価・見直し（予定）

1) 進行管理

現在はまだ計画策定の途中であるが、計画策定後はこの策定作業に関わった市民代表・関係機関の専門家・西予市の担当者等で進行管理組織を設置する予定で、この組織によって計画に基づいた行われた各種の対策の評価を行い、適宜計画の微調整をする。特に計画策定に加わった市民代表の方々から今後も計画推進へ積極的に加わりたいとの意見が多く寄せられている。計画に基づいて行われた対策等の評価方法については早急に検討される必要がある。

2) 目標や各対策の見直し

計画の実施年度は次年度からとなっており、現時点では計画に基づいた目標や各対策の評価や見直しは予定であるが、西予市では健康増進計画が策定される以前から年度ごとに目標や事業の評価・見直し作業を行っているので、特に困難はないと予想される。

5 計画策定や推進における連携

1) 市における他部局との連携

地域総体で健康づくりに取り組むいわゆるヘルスプロモーションの推進には、行政機関の様々な分野から様々な立場のスタッフが参画する必要がある。本計画策定にあたっては保健福祉分野のスタッフはもちろんのこと、今後も大きな問題となるであろう医療の対策についても十分に議論する必要性があることから、医療分野のスタッフも参画した。

2) 関係機関との連携

健康増進計画策定には、健康課題抽出のための情報収集分析、市民ニーズ把握のための各種調査とその診断など専門的な技術が必要とされる。特にこれらの専門的技術のサポートについては管轄保健所である愛媛県八幡浜中央保健所の人的及び技術的協力が大きな力となっている。また、愛媛県の公衆衛生技術指導機関である愛媛県健康増進センターから派遣されたアドバイザーによって、計画づくり全体のレイアウトや策定手順などについて具体的なアドバイスがなされた。

3) 住民組織や地元企業との連携

計画策定時には各住民組織の代表者が参画し、さらに今後の計画の推進体制（計画の評価や目標の微調整）などにも加わる予定である。しかしながら、働き盛りの多くの人々が属する職域との連携はまだまだこれからの課題であり、本計画推進の課程において産業保健との連携の強化がなされることが期待される。

平成16年度 厚生労働科学研究費補助金(健康科学総合研究業)

分担研究報告

地方健康増進計画の現状と課題及び支援のあり方に関する研究

～愛媛県下市町の調査を通じて～

分担研究者 櫃本真幸(愛媛大学病院医療福祉支援センター)

緒言

地方健康増進計画の策定状況が未だ4割程度にとどまっている現状であり、その理由として、市町村合併や人材不足を表向きの原因にしているところが多いが、逆に合併前にその必要性を感じ急いで策定している自治体もある。実際には、予算を伴わない計画、たてされる計画など、上意下達的な地方分権化になじめない自治体のおかれている境遇が、策定に対して消極的にさせている点が大いと思われる。補助金がつくことが予算獲得の根拠だった自治体にとって、今後の三位一体の改革が進む中で、自らの健康政策を検討できていない状況をどう切り替えていくのか、この計画策定のプロセスがその解決に向けて重要な資源となりうると考えられるが、計画書作りに終始する傾向も否めない。

計画策定を阻害しているものは何なのか？地方自治体は何を必要としているか？現場の実情を把握することから地方健康増進計画の技術的支援の具体的な内容を検討することは極めて重要である。

目的

地方における健康増進計画の効果的な策定推進や計画の活用について、どこに焦点を当て、

何を支援していくことが効果的なのかを検討するために、愛媛県をモデルに調査を行い計画策定の実態や問題点を把握し、さらにその結果を基に、全国自治体を対象とした調査を展開し、現場の実態から見た、策定の推進や活用を図るための支援方法を検討する。

特に、事業実施そのものを目的化せず、目的実現のための手段として事業を位置づけ、変化する現状やニーズを継続的に踏まえながら、適宜、事業が手段として有効に活用できているかを評価し、必要に応じて見直し更なる活用を図っていくことを重視する。いわゆるPDCAサイクルがちゃんと回っているかの評価がプロセス評価であり、そのことによりアウトカム評価との関連を検討することに意義がある。このことについて、関係者の理解や住民への周知が図られているかの実態を把握する。

方法

愛媛県下全24市町(平成17年1月末現在)を対象に、平成17年2月に、地方健康増進計画に関する郵送アンケート調査を行った。調査項目については、巻末の参考資料に記載した。

結果及び考察

回収率は県内全24市町(100%)である。調

査結果の詳細については、別途調査票に整理し記載したので参考にされたい。

市町村健康増進計画の進行状況であるが、未策定 13ヶ所（54.2%） 策定中 4ヶ所（16.7%） 策定済み 7ヶ所（29.2%）という結果であった。

<未策定市町>

70市町村が20市町まで急激に合併の進んだ愛媛県は、未策定市町村が過半数を占め、またその理由のほとんどが、市町村合併を理由に挙げている。計画策定の時期が、合併に重なったことが、計画策定を後送りしてしまう背景となったようだ。合併による事務量の急増が、本来合併前にしておくべき計画策定を後回しする理由になってしまっており、合併後に旧市町村の状況を反映するためには苦勞することが推測される。また、計画策定期間も合併が落ち着いてから検討のところが多く、今後も合併の影響を強く受けることが推測される。

策定目的についての自治体の中で話し合いが十分に行われる機会に乏しく、策定に対する意欲が盛り上がらなかった状況もうかがえる。策定作業に着手していない自治体にとって、具体的ななしかも技術的な支援を要望するまでに考えは及んでおらず、まず、策定目的のコンセンサスからはじまり、やらされる計画ではなく、自ら取り組むことの必要性理解への支援が必要だと考えられる。

<策定中市町>

現在策定中の自治体は、合併の影響を受けながらも種々の具体的な支援を求めている。しかし中でも市町村マンパワー不足が主原因となっているということは、計画策定が、新規のあるいは追加の事業として受け止められている状況は否めない。策定中にもかかわらず、立てさせられている感覚が根底にあり、担当者の抱え込みや作業上の行き詰まりなどがあり、悩んでいる状況が理解できる。策定目的に適宜返りながら、計画書作りではなく、計画策定を手段とし

た、ヘルスプロモーションの推進につながっていくよう、市町村に寄り添って支援するスーパーバイザー的な存在が期待される。

<策定済市町>

既に策定済みの市町の特徴として、目的に関してヘルスプロモーションの理念を捉えたコンセンサスが図られていることや、具体的に顔の見える身近なアドバイザー（保健所やスーパーバイザー）が存在して、寄り添って計画策定のポイント（壁にぶつかった時）に関わっていることが推測できる。また関係機関や住民の協力が得られるような工夫がされており、行政丸抱えとならないようにしている点も共通している。

以上から、まず各自治体において策定目的に関するコンセンサスが十分図られることが不可欠であり、合併事務の煩雑さに加えて新規の計画策定事業が加わった、いわゆる上意下達で「やらされる感覚」を払拭することが先決であろう。地方の時代と言われながら、長い間の補助金行政の影響は未だ根強く残っており、住民主役の本質を理解すると共に、地域の自立を推進するための主体性を引き出すことが重要だ。

結 論

策定に主体的に取り組めるようになれば、その支援も具体化し、支援の成果も期待できる。都道府県や保健所等のバックアップも重要だと思われるが、そのような支援が弱いもしくは得られにくい場合には、愛媛県内調査からも明らかかなように、大学や研究機関等からのスーパーバイザーの関わりが原動力となっている。

今後全国的に推進していくためには、都道府県や保健所の役割を明確にし支援体制の強化を図ると共に、地方自治体が安易にコンサル会社に丸投げすることのないよう、スーパーバイザーの確保や支援の受けやすいような環境整備を行っていくことが効果的だと考えられる。

なお、既に当研究班で実施した先進地調査にこれらの知見を併せて、地方健康増進計画の

技術的支援に関わる調査票を作成し、これを用いて、全国自治体（市町村）を対象とした調査を行い、各レベルにおける支援のあり方や具体的な技術的支援の内容を検討をさらに進めて参りたい。

参考資料・・・調査票（愛媛県内実施）

別途資料・・・調査結果

[先進地調査のインタビューガイド]

調査票① [健康日本 21 地方計画の策定・推進プロセス] について

<計画策定プロセス>…計画書作りではなくプロセス自体を重視しているか？

○策定組織・・・行政・専門家主導的にならない工夫、住民の声を反映させる工夫

策定組織を形式的ではなく有効活用するための工夫

・策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか（概ね網羅されている）？

特に、重要（必要不可欠）と考えた関係機関や組織・団体は？

・策定組織には、住民が含まれていましたか？ 住民委員の選択方法

特に、重要（必要不可欠）と考えた住民組織・団体は？

・策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか？

活発な議論ができたと思う具体的な根拠を挙げてください

活発な議論のためにした工夫があれば、ご紹介ください

・その他 策定組織に関する何らかの工夫をしましたか？

○現状およびニーズの把握・・・アンケートのような断面調査のみに頼らない工夫

住民の本音を聞き出す（把握する）工夫

・地域の健康課題は明確に把握されていますか？

そのために活用しているデータは？ 特に有効だと思われるもの

計画に反映できる継続的にモニタリングしている情報はありますか？

・住民のニーズは十分に把握されていますか？

住民ニーズを把握するために行った工夫は？（アンケート調査以外）

・ 日常活動を通じてのニーズ把握への取り組み状況などしていますか？

例；健診の問診票の活用 連携関係機関からの情報収集など

○住民や関係者との目的、目標の共有・・・計画策定以前に目的を共有する姿勢

計画書づくり自体を目的化しない工夫

計画を立てることへの主体的なモチベーション向上のための工夫

・策定を進める以前に計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか

・目的等を共有するために工夫したことはありますか

・計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか

公開の方法は？

○ 計画の目標設定・・・市町村の主体性の重視

国の健康日本 21 の受け売りにならない工夫をしましたか？

目標設定のためのプロセスを特に重視しましたか？

・地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか？

貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？

○目標と事業（手段）の関連・・・事業実施自体を目的とせず、目的実現のための手段として位置づけていますか？

・目標を達成するための手段としての事業として明確になっていますか？

目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか？

- ・事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか？

優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか？

- 具体的な取り組みの提示・・・あり方論に終始せず具体的な取り組みが明記されていますか？

計画が具体的な取り組みに繋がることを意識していますか？

- ・地方計画の取り組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか？

取り組み内容をより具体的に示すための工夫があれば、ご紹介ください

<計画策定後の推進>

- 取り組みのための基盤整備・・・地方計画を推進するための体制を整備していますか？

推進体制をご紹介ください

推進体制を構築する上で、大切にされたことは？

- 環境整備・・・計画推進が住民のモチベーションを条件とせず、住民のモチベーションを向上するきっかけや維持・向上するフォローのための環境整備（情報提供・受け皿のネットワーク化等）が盛り込まれ、推進に役立っているか？

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか？

- ・環境整備の目標の検討に当たって、力を入れたことは？

- 地方計画の周知・・・計画の目的（住民とともに計画を見直し環境整備を進めていくプロセス）や具体的な今後の取り組みについて住民の理解・協力を得る工夫をしていますか？

上意下達の「計画書」の情報周知に偏っていませんか？

- ・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか？

周知の方法、頻度、認知度の確認方法などについて、お教えてください

- 地方計画の活用状況・・・計画を手段として活用する工夫をしていますか？

住民活動支援や地域資源の活用への工夫はありますか？

- ・地方計画は、他の事業の計画や予算編成に活用していますか（予算への反映）

地方計画に基づいて、予算の獲得がどれくらい容易になりましたか？

- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか（住民や関係者への支援）

具体的な支援の方法や支援の例をご紹介ください

- ・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？

（地域健康資源の活用）

把握するために行っていることは？

把握した情報の活用や提供方法は？

<進行管理・評価・見直し>

- 進行管理組織・・・計画の進行状況を適宜把握し見直しに反映させる工夫はありますか？

- ・進行管理組織を設置し、進捗状況について把握していますか

進行管理組織について、ご紹介ください

進行管理組織を構築する上で、大切にされたことは？

進捗状況を把握するために行っていることは？

- データ収集、モニタリングシステムの構築・・・ルーチンワーク等を活用して、目的に沿った日常の情報収集や分析を行う体制作り

- ・評価指標について、データ収集の方法がありますか
データ収集を行っている項目は？
データ収集の間隔や頻度は？
データ収集における関係機関や住民組織・団体の関わりは？
- ・収集されたデータの公表や情報提供はどうされていますか？

○目標の見直し・・・計画のバージョンアップなど適宜見直す工夫はありますか？

- ・目標や評価指標について、見直しを行っていますか？
行った場合は、どのような見直しですか？
見直す際には、どんな視点で見直しましたか？

○個々の事業の評価と見直し・・・計画策定に伴って、既存の事業の評価・見直しがされましたか？

- ・目標に基づいて、個々の事業の評価を行っていますか
どの範囲の事業について評価を行っていますか？
事業評価の方法は？
事業評価において大切にしていることは？
事業評価に関わっているのは誰ですか？
- ・新規事業の開始だけでなく、既存事業の見直しを行っていますか
計画の策定・推進に伴い、見直された事業は？
見直しの際の視点や大切にすることは？

○環境整備に向けての取り組み・・・健康を支援する環境づくりへの具体的な取り組みはありますか？

- ・食環境や運動環境の整備など、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか？
取り組まれている環境整備の内容は？
環境整備において連携している行政部局、関係機関・団体は？

<連携>

○計画策定や推進における連携への働きかけ・・・連携を図るための工夫をしましたか？

- 部局間の連携 行政の縦割り弊害への工夫 保健担当課・係りに限局しないための工夫
- ・関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？
連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。
連携を図るために行われている工夫は？

関係機関・団体との連携・・・地域の健康資源を活用するための工夫

- ・関係機関・団体等との連携が円滑に図れていますか
連携できた機関・団体を通じて連携ができていること端的に物語る事例があれば・・・
連携を図るために行われている工夫は？

企業との連携・・・職域との連携についての工夫

- ・地域の健康づくりに向けて、企業と連携が図れていますか？
連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。
連携を図るために行われている工夫は？
- ・産業保健との連携が円滑に図れていますか？
連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。
連携を図るために行われている工夫は？

住民組織との連携・・・住民参加・自治を実現するための工夫

- ・住民組織，ボランティア，NPO等との連携が円滑に図れていますか
連携ができていること端的に物語る事例があればご紹介ください。
連携を図るために行われている工夫は？

その他 地域のネットワーク作りへの工夫があればご紹介ください。

◎ 調査票② [個々の保健事業のプロセス評価項目のリスト] について
(主要な事業1つについて尋ねる)

○事業のねらいが地域の実情にてらしあわされて明確にされているか

事業目的の明確さ・・・事業の目指すアウトカムが明確になっているか？

- ・事業により改善すべきQOL・健康指標や生活習慣の指標が明確になっていますか？
- ・保健福祉計画の目的や目標との関連が確認されていますか？
- ・各保健事業の目的について、実施要綱などでどこまで明確に記載されていますか？

実施要綱に記載されている内容：

事業目標の明確さ・・・事業の評価指標

- ・各保健事業の目標について、実施要綱などでどこまで明確に記載するようにしていますか？

実施要綱に記載されている内容：

- ・当該事業により、改善すべき指標（本人の知識・技術・態度，周囲の支援，社会資源などの環境）が明確になっていますか？

事業目的や事業目標についての現状把握・・・アウトカムや事業の効果を見る指標等の日常の把握システムの構築の有無

- ・事業の実施に当たり、事業目的や事業目標とその現状をどう把握していますか？

事業目的・目標の共有・・・目的・目標の確認と共有の広がりへの工夫

- ・事業目的や事業目標について、どの範囲の人達と確認していますか？

スタッフ，課内職員，関係課職員，関係機関職員，住民組織・団体

- ・事業目的や事業目標の現状について、どの範囲の人達と確認していますか？

スタッフ，課内職員，関係課職員，関係機関職員，住民組織・団体

過去の事業の評価・・・事業が適宜、目的・目標に照らしあわされて評価・見直しができているか

- ・当該事業のこれまでの評価を行い、その課題を明確にしていますか？

その課題を克服すべく事業の見直しが行われていますか？

事業に関する情報収集・・・目的を持った情報収集（評価指標）を明確にし、それらに関して日常収集（モニタリング）しているか否か

- ・当該事業の実施に関する内外の情報をどの程度、収集、分析していますか？

関連事業との連携・・・事業の実施が単独・縦割化していないか

- ・当該事業と関連のある他部局・機関の事業との連携をどうとっていますか？

事業の企画への参画

- ・事業の企画にどの範囲の人達が参画していますか？

費用対効果の検討・・・目的を明確にした上で、その目的実現への程度寄与しているか、把握分析しているか

- ・費用対効果についてはどこまで詳細に検討されていますか？

何を目安に「効果あり」としているか

対象者への広報・・・住民と目的や目標を共有し、参加意欲を向上させるような広報活動への工夫

- ・選定された対象者に参加を呼びかける際にはどのような広報を行っていますか？

参加者のニーズの把握・・・住民のニーズを日頃から聞き、事業に反映させる工夫

- ・参加者の個々のニーズを事業内容に反映させるためどのような工夫をしていますか？

人材の最適配置・・・スタッフの専門性が活かされているか

- ・関わる職員の専門性が発揮できていますか？

発揮できている（できていない）と判断した根拠は何ですか？

- 健康資源の有効活用と連携・・・事業の実施を通じて、地域資源の有効活用や関係機関等との連携が図られていますか？

地域の資源の有効活用

- ・地域の資源（人的資源を除く）が有効に活用できていますか？

活用できている（できていない）と判断した根拠は何ですか？

関係機関との連携

- ・事業の実施にあたり、関係機関との連携ができていますか？

できている（できていない）と判断する根拠は何ですか？

住民組織・団体との連携

- ・事業の実施にあたり、住民組織・団体との連携ができていますか？

できている（できていない）と判断する根拠は何ですか？

事業への協力者の満足度

- ・協力してくれた関係機関職員，住民組織・団体のメンバーの満足度をどうですか？

そう評価した根拠は何ですか？

- 住民参加 住民の主体性の推進・確保・・・住民の主体的な参画を推進するための工夫

参加者の役割

- ・事業を実施するうえで、参加者自身にどのような役割がありましたか？

それはどうやって決めましたか？

参加者の自己決定

- ・事業内容や自己の目標の決定に関する参加者の態度はどのようなものでしたか？

参加者の満足度

- ・事業への参加者の主観的な満足度はどうですか？

その満足度をどうやって評価していますか？

参加者の変化

- ・参加者の変化（生活習慣，健康状態，エンパワメントなど）はどうですか？

そう評価した根拠は何ですか？

- 事業実施者の自己評価・・・事業目的・目標に返った評価をしているか否か？

評価を前提に事業に取り組んでいるか？

その評価による効果が現れているといえるか否か？

事業に関わるスタッフ自身の満足度は高いか？

事業に関わったスタッフの手ごたえ

- ・スタッフの手ごたえはどうですか？

その手ごたえを判断している根拠は何ですか？

事業効果の評価

- ・事業の効果を評価する仕組みが組み込まれていますか？

いつ（事業の度，年度末）？

何を（参加者の主観的な評価，客観的な評価，事業の波及効果）？

誰が（専門家，事務職，住民や関係者）？

<調査票③>

先進地用インタビューガイド（案）

- あなたの自治体の健康増進計画の「うり」は何ですか？

（自分達で計画策定プロセスや計画内容、推進状況などで、よくやっていると思うこと）

計画策定を通じて地域独自性、ねらい、こだわりなどを持って取り組んだ。もしくは、策定後成果として振り返れる内容（ポイント）が明らかになっている。策定プロセスそのものに意義があったことが推測できる。

- 計画の策定において、もっとも大切にされたことは何ですか？（3つくらいまで）

それを大切にしたいと思ったのは、なぜですか？

何を大切にするかについて、誰と話し合いましたか？

何を大切にするかについて、どの範囲の人達と確認しましたか？

計画策定のねらいについて十分な認識がされている。そのコンセンサスについてどの程度努力が払われているかは、計画の策定の意義に大きな影響を与えると考えられる。

- 策定において悩んだときに、サポートしてくれたのは誰でしたか？

先進地にはサポーターが存在することを前提に考えている。保健所や関係機関など地元の資源のサポートを受けているのか、それとも、あえてスーパーバイザーを獲得してサポートを受けているのか？現状を把握し、サポーター体制の整備を検討する。

- どのようなサポートが一番ありがたかったですか？

自治体への支援内容を具体的に把握することにより、計画策定における技術的な課題を把握し、それらへの支援体制を明確にする。ただし全面委託といったコンサルタントとは異なる。

- 計画を推進する上で、大きな原動力になっているのはどの組織・団体ですか？

地域資源の開発・発掘・活用がこの機会にできたか？どのような組織・団体が一般的に有効化を把握する

- 計画を策定や推進を通して、「エンパワーされたなあ」と感じたのはどんなときでしたか？

計画策定プロセスにおいて、自ら元気付けられた、あるいは自分の力が引き出され発揮できたと感じられたことがあったという前提で、その内容や機会を明確にし、計画策定の裏の効果を抽出する。

- もっと、こうやれば良かったと思うことがあれば、教えてください。

策定プロセスを振り返って、再度計画に関わるときにはとか、これから立てるところのアドバイスとしてとかの観点から、さらに計画策定を意義のあるものにするための気づきはあるか？その内容を把握し、そり一段階上を目指した計画策定に活かす。

別途資料 <まだ策定していない市町村>

今後の計画について

策定が進まない理由

	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8
	17年度策定 予定	18年度以降 に策定予定	当面策定す る予定はない	その他	財政上の理 由	市町村合併	マンパワー不 足	策定目的を 十分に話し 合っていない	ヘルスプロ モーションの 理念の理解 不足	慎重なる「計 画書」への拒 否反応	計画策定の 手法が良くわ からない	その他
S市	○					◎						
I市	○					◎						
K町				○ 16年度に旧町村で作成したも のを19年度に見直す予定		◎						○ 旧町村で作成したのを実行 し、その結果を19年度に見直 すため
F町			○			◎						
U町	○					○						
H町		○				○	◎					
I町		○				◎	○	○				○ 皆、必要性はわかっている が、日々の業務でそれぞれに ゆとりがなく、職員の意志統 一ができていない
Y市		○					○	◎				
U市		○				◎	○					
M町			○		○	◎	○	○				

今後の計画について

策定が進まない理由

	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8
	17年度策定 予定	18年度以降 に策定予定	当面策定す る予定はない	その他	財政上の理 由	市町村合併	マンパワー不 足	策定目的を 十分に話し 合っていない	ヘルスプロ モーションの 理念の理解 不足	度重なる「計 画書」への拒 否反応	計画策定の 手法が良くわ からない	その他
K2町		○				◎	○	○				
Y町		○			○			◎				
A町	記入なし					◎		○				

＜現在策定中の市町村＞

計画推進が進まない理由

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	備考
	財政上の理由	市町村合併による事務の複雑化	マンパワー不足	策定目的をスタッフ間で十分に話し合っていない	保健所等の支援がない	関係機関の協力が得られない	相談相手が不足している	策定手法に関する不十分	ヘルスプロモーションの理念の理解不足	度重なる「計画書」への拒否反応	住民参加や住民主体の役割がわかりにくい	市町村独自の目標設定が難しい	住民とのパートナーシップが築かれにくい	EBMIについて理解しづらい	その他	
S市		○	◎	○			○	○					○			進んではいるが、問題点がある
M2町			◎							○		○				日頃の業務との兼ね合いで残業が続ぎ、担当が疲れています
K3町		○						○		○				◎	スタッフ間で話し合いはもつが、意識等、考え方の統一がとて難しい	
T町														○	年度内に策定	

＜既に策定した市町村＞

うりはなんですか？	もっとも大切にしたいことは？	大切にしたいと思っただのはなぜ？	誰かと話し合いましたか？	どの範囲の人選と確認？	サポートしてくれたのは誰？	ありがたかったサポート	原動力になった組織・団体	エンパワーされたと感じたのは？	こやれば良かったと思うこと	計画の推進で困っていること
退職後男性の生活と健康状態を知ること	対象となる壮年期市民の生活と健康状態	生活習慣病予防のために一番大切な年齢であると考えたため	保健センター内の策定スタッフ	策定スタッフ間のみ	新居浜保健所	話し合いを持って方向性を確認してくれたこと	新居浜市健康都市づくり推進協議会	策定段階で各種組織・団体と話し合いを持ち、住民からの思いを聞いた時	策定段階で困ったと思うことがあった時、住民にすべてを返し一緒に考える場を持つてばよかったと思う	思ったように計画が市民の中に広がってゆかないこと
				計画づくりワーキング委員のどの様な陣にしたかを中心に。ワーキング委員は地域住民・専門職・行政各課から構成した。	地元大学、保健所	ワーキング？会の取りまとめ、分類等	地区組織、各種団体	ワーキングの話し合いの時、委員が「ちょっと外れるかも…」とついながら自分の思いを話し始めたとき等		
	現状の分析(評価を数値で表すこと)	見直し、評価での分析に使うため	計画策定にたずさわるスタッフ		保健所スタッフ	資料の分析、データの提供	学校関係		合併まで作り上げたかったのに結局時間追われまじった。もう少し考えこんで作りたかった。	東温市として、ひとつの計画になっていませぬ。合併後の見直しが必要と考えます。考えます。考えます。
M市	ワーキング委員を決めて話し合いを行ったこと	市民に受け入れられる計画内容にするため	ワーキング委員で話し合ったり小西教授の助言を得た	策定委員に市民を公募により参加してもらった	愛大医、小西教授、保健所医監	問題の掘りおこし方法や策定方法の助言、分析の協力を頂いた	ヘルスポランティア(地域保健推進協力会等)	健康づくりキャンペーンを通して、市民の参加や理解を得たとき		マンパワー不足
I2市	各地区公民館等で住民とのグループワークを実施し、基本の柱が決まった	ただの計画ではなく、住民が目標として実践してもらったから	住民の思いを基本にし、スタッフ間で話し合った		保健所の計画づくりの担当者	地区分析のための基礎データ作り	保健推進員、歯科医師会等		住民とのグループワークは行えたが、市職員(他課)の入り込んだグループワークがあればよかった	
O市	小さなことからコツと！計画推進に努めています。	住民の身近な計画として位置づけたかった	成人班会、ワーキング委員会	策定委員会のメンバー	松山市保健所 近藤弘一先生	データ集計する上で、見方が妥当かのアドバイスと計画の方向性のアドバイス	食生活改善推進協議会	ワーキング委員の率直な意見は新鮮で考え方に広がりが持てました。事業を他課と連携する中で、計画を知ってもらい理解してもらった時！		タバコの推進は…!!

	うりはなんですか？	もっとも大切にしたいことは？	大切にしたいと思っただけ？	誰かと話し合いましたか？	どの範囲の人達と確認？	サポートしてくれたのは誰？	ありがたかったサポート	原動力になっただる組織・団体	エンパワースされたと感じたのは？	こうやれば良かったと思うこと	計画の推進で困っていること
S2市	住民の声を聞くように心がけた	住民の声を聞く(ワーキング委員会の開催、住民アンケート調査)／計画に携わる職員間の意思統一のための話し合い／各町の健康課題を分析し計画前の準備を行い、アンケート調査、計画書は手配にした	事務局12名(各町2～3名ずつ)、保健所スタッフ(保健師、栄養士等)	事務局12名で	保健所(保健師、栄養士)、健康増進センター所長(スーパーバイザー)	事務局間で話が進まない時に適切なアドバイス等をもらった時	ワーキング委員会			ワーキング委員会でグループワークや住民アンケートで住民の声を聞く様に心がけたが、もう少しワーキング委員会の回数を増したほうがよかったのではないかと？	
N町	計画はほとんど事業化し推進している	住民と共同して、健康づくりをしていくこと	今後は住民の力を借りながら仕事をしたいことが大切だと感じたから	はい	係内実務者レベル	係内の保健師や保健所の支援スタッフ	他市町村の事例等の紹介など	特になし	特になし	特になし	市町村合併に伴い、体制的に今まで通りの計画推進が困難になること

既に策定した市町村

以下の点で当てはまることはありますか？

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	コンサルタント業者に委託	スーパーバイザー的な人がいた	保健所の支援がかなりあった	関係機関の協力が得られた	住民の協力がかなりあった	ヘルスプロモーションの理念について前もって勉強した	計画策定の目的について前もってスタッフ間でよく話し合った	計画策定の目的について前もって住民とよく話し合った	市町村独自の目標値を設定することができた	毎年評価することを前提としたデータのモニタリングを行う体制が整備された
新居浜市			○	○			○			
砥部町				○	○	○	○	○		
東温市		○	○	○	○		○		○	
M市		○		○		○	○		○	○(5年毎)
I2市			○				○			
O市		○					○		○	